

第6期第3回あま市まちづくり委員会 委員意見

- ・協働を通して実現したいあま市の姿について

●意見1

あまつりについての提案

- ・あま市は三町合併し、市として協働をしているが、アートヴィレッジ（あまつり）に対して、市の外れの地区などの利便性を考えると、役所の前で待機しているバスでの移動が主であるため、「緊急の事がある場合を考えて、出掛けたくても、出掛けられない方」が多いのでは。
- ・あま市以外の方に来てもらうためにも、交通網の整備又は今回市役所新築により、七宝が中心になると思われる。大きな商業施設（あま市にはヨシヅヤ甚目寺店）があるが、七宝地区にも施設を勧誘する動きをして、他方面からも、あまつりに関して関心を持ってもらう事などが必要では。

まとめ

- イ）交通機関の整備
- ロ）商業施設の勧誘
- ハ）大会勧誘など

●意見2

- ・まずは協働をという事を、どう言う視点、価値観でやっていくのか。市民、団体、企業、役所で共通意識、共通価値観、共通労力を徹底していきたい。その上で、やっていく事を決めるべきかと。一つの事に対しても、誰かに負担がかかりすぎたりすると続かないし、不平不満が出て破綻します。
- ・協働を通して、商工会青年部での経験などを活かそうとすると、どうしても、イベントなど地域の人たちが喜ぶ事がしていきたい。
- ・例えば来年2024年が、あま市出身の福島正則公の没後400年にあたるので、何かあま市から出来る、他市町村がやっていないようなイベントや、市民や学校を巻き込んだ一斉にやるプロギングなどをして、健康やクリーンな街への活動なんかも良いんじゃないでしょうか。もちろん全ての人がボランティアでの活動が原則です！給料やその他、見返りがあるような事では何も意味がないので！
- ・あと、協働をするのに、いろんな考えや、経験、知恵など、たくさんの人たちと意見交換が出来るような場を、まちづくり委員会の枠を超えて、食事会や意見交換会などがあってもいいのかなと。

●意見 3

- ・コロナ騒動で、メンバーの生活も活動場所も変化した。
- ・その中で、今出来ることは、自宅で活動すること。
- ・観光協会も、頑張っていることが喜ばしいこと。

●意見 4

目指す姿

- ・誰かのためになる活動をもっと楽しめるまち。

検討したい内容

- ・幅広い世代をまちづくりにまきこむアイデア
- ・協働に対する理解を促進する方法

●意見 5

- ・「あま市総合計画審議会」の資料の中で市民アンケート調査票を活用した、重点エリアもしくは推進エリアに分類されて持続的に取り組むべき課題が分かるものがあつた。そこから抽出して、委員会で実践してはどうか。
- ・ゼロベースから取り組むことは難しい。現在地域で活動している団体で、活動をブラッシュアップし、関係各団体を巻き込むことで、協働を実践できる仕組みを構築してはどうか。

●意見 6

『オーガニックビレッジ構想』

- ・国連 SDGs の日本の取り組みとしてできた法律『みどり戦略法』として 2050 年までに有機農地 25%を掲げ、あま市も取り組まなければならない。行政と市民が手を携えて未来のために 2023 年から取り組みたい。

※みどり戦略法

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/houritsu.html>

※オーガニックビレッジ（国からの交付金あり）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/organic_village/R5_organic_v.pdf

- ・『多世代交流の場としてのプレイパーク』

耕作放棄地などを利用し、シルバーさん主婦など「見守り隊」という雇用を生み出し、安心の中で子どもが伸び伸びと自由に遊び考える場にする。年代を超えて交流の場となる。

※プレイパークとは

https://www.city.shinjuku.lg.jp/kodomo/kodomos01_000117.html

●意見 7

協働を通じて実現したいあま市の姿

イ. 学ぶ

ロ. 受けつぐ

ハ. 称える

ニ. 実行する

ホ. 起こす

※イ → ロ → ハ → ニ → ホ → イ を戻り繰り返す。

近所付き合いが盛んになると、子どもへの行動制限が緩和される傾向がある。

挨拶、助け合い、これが地域の第一歩になる気がする。

●意見 8

・高齢化社会を迎えるにあたって、意欲・体力のある65歳以上の方が、どれだけボランティア精神をもって社会に貢献できるかが、これからのまちづくりのポイントだと思う。

・提案1：ボランティアポイント制度をつくる

あま市独自のボランティアポイントカードを発行し、地域や社会に貢献した時間に応じてポイントがもらえ、自分がためたポイントだけ、将来介護などの支援を受けられるような、市内全体で「恩おくり」を行えるようなシステムをつくる。

デジタルを活用し、できればマイナンバーカードとひもづける。だれがどれだけ社会に貢献したかをポイント化し蓄積でき、貧乏人でお金は貯められなくてもボランティアポイントをためることで将来の介護不安も解消され、お金持ちが貯金を貯め込むことも減り消費も活性化する。これからは、なんでも行政に頼るのではなく、ボランティアの力を借りることで市の社会保障関係の支出も抑えられ、あま市全体が経済的にも財政的にも潤っていくと思う。

例) あまつりでボランティア参加すれば、小中学生でもボランティアポイントが加算されていく。

例) 近所の高齢者がボランティアポイントを使って、家具の移動を依頼（ボランティアセンターへ）→SNSでボランティアセンターから案内→案内をみた市民が応募→ボランティア可能な方が紹介・派遣され、家具を移動する。→センターを介してボランティアポイントの移動

・提案2：学校図書館を一般の人に開放する。

授業後や土曜日・日曜日、長期休業中などで、児童が授業のない時間に学校の図書館を、一般市民に開放をする。そうすることで、高齢者も歩いて行ける図書館が身近にでき、併せて、

司書を常駐していただければ、図書の管理運営を任せられ、図書内容も充実すれば、学校もありがたい。祖父母と児童と一緒に図書室で本を読むような光景ができると家族の交流も増え、文化・福祉の両面で豊かな市になると考える。

・提案3：こども食堂の寺子屋版をつくる

経済格差が児童の学力差にそのまま反映しているような格差の固定化が進みつつあることをとても憂えています。経済的に貧しい子でも意欲がある子を救っていけるように、ボランティアを募って、帰宅後の児童の学習（宿題でも可、話を聞いて上げるだけでもよい）をみてあげられるような場やシステムができあがると、人材の育成が進み、かつ人に優しいあま市になると感じる。

●意見 9

- ・“協働”について、まだまだ知らない人が多い。
- ・あまつりを協働で盛り上げる事が大切だ。
- ・何をすべきか。

●意見 10

- ・ゴール：あまつりを市民協働型で開催をする。

STEP0. 日程感を把握する。

STEP1. あまつりの事業運営方法、収支等を把握する（現状把握）

STEP2. ①市民協働での活動ができている部分、②できていない部分を把握する（現状把握）

STEP3. ①のブラッシュアップ、②の市民協働での実施を検討する。

STEP4. 具体的に日程をひき推進していく。

●意見 11

- ・良い町とは？

ずっとここにいたいと思える町（仲間がいる・安全・安心）

- ・市民活動団体と市民が交流するイベントを定期的にやる

みんなが WORLD カップみたいに、一つになれるイベント

例) みんなで一つになろう！ジャンボ料理づくり

みんなで一つになろう！津島市の市民活動団体 V S あま市の市民活動団体の運動会

●意見 12

- ・魅力的な歴史、文化のあま市を実現する協働の取組み

戦国武将生誕の地、甚目寺観音を中心とした地域、七宝焼産業の地、萱津神社の香の物祭り

や木田の湯の花神事、下之森オコワ祭などの祭礼等文化財の活用を図る。

- ・音楽文化を中心とした潤いのあるあま市の創出

市民音楽祭などのイベント

- ・安全安心なまちづくりを、キャンペーンなどの実施で実現

例)「(日本一)ゴミのないあま市」実現に向けてた活動→犯罪のないまち

※以上いずれもメディアへの情報提供を多くしてあま市の魅力を発信する必要がある。

- ・あまの歴史・文化を題材とした ミュージカルの制作・公演

2004 年の愛知万博で当時の美和町まちづくりグループ「みわ風船」企画の「美和 阿波おどりの輪」が上演され大好評でした。

※DVD 他多少の参考資料はありますので提供できます。

●意見 13

- ・あまつりを協働で実施するのが良いと思われる。

- ・あまつりを協働で作り上げることによって、達成感とそれに伴う一体感が醸成できる。

まつりというのは、具体的で分かりやすい。多くの人が集うことができる。

- ・(たくさんの時間を費やすのは難しいが) 小中高校で何かのモニュメントの一部を作り、それを合体させてモニュメントを作ることにより、参加意識を高めることができる。

- ・習字、絵、家庭科作品、工作等の子どもの作品を、負担のない範囲で展示するのも可能。

- ・中学校や高校の吹奏楽部による演奏もできる。

※発表の機会がいただけるとありがたいと本校の顧問は述べています。ただ、大会前の時間が必要な時期は難しいかもしれないとのこと。

- ・地域の方々によるブースを設けるのも良い。

- ・あまつりの企画・立案の段階から、子どものボランティアも募集する。中学生などは、ボランティアに対する意欲を結構持っている。

●意見 14

あま体操コンテスト

- ・賞金か商品を豪華にし、話題性をもたせる。

- ・年代別にする。※例えば 18 歳未満の部、成人の部、シニアの部、等

- ・コンテストの運営を行政と協働する。

見込まれる効果

- ・あま市内外に、あま市を知っていただける。

- ・世代間交流

- ・市民の健康維持

- ・あま体操の普及

●意見 15

- ・小学校・保育園に高齢者が出かけていき、身体を動かしたり出来るゲーム、運動をする他にも、脳トレ、クイズ大会、その他
- ・三世代別居生活があたり前になりつつある今、なんとなく心の豊かさが失われています。それを補うには、両方の交流が必要かと思う。(お互いが学ぶ事があります。)
- ・高齢者には、認知症予防につなげ、元気で長生きの元気年齢を伸ばす。